

## 8. 健康生きがい学会分科会 久留米市（担当：福祉開発研究所）

### (1) 事業内容の報告

#### 1. 事業の目的

- 健康で生きがいに満ちた高齢期を送ることができる国づくり、地域づくりを目指す「第1回健康生きがい学会」が久留米大学で開催される。生きがいに関する専門家や実践家が一堂に会して、学術の交流を図るものである。
- 試行事業の内容は、「生きがいと住まい、空間」をテーマとした分科会の開催である。高齢者と住まいと生きがいの関係、環境や地域との関係や望ましい在り方、実際の福祉の街や介護付有料老人ホームの状況などが報告される。高齢期の生きがいについて、家やコミュニティ、住まい方はどのような影響を与えるのか、あるいは逆に与えられるのか、様々な分野・視点からの報告並びに議論が期待される。
- 一方、この分科会には高齢の住まい方について、住み続けるにせよ、住み替えるにせよ、問題意識や関心をもつ中高年層の参加が多く見込まれる。
- 会場での報告や議論、質疑内容、並びに、参加者へのヒアリングを通して、高齢者の住まい方と生きがいの相互関係、住まい方へのニーズや問題意識がいかなるものかについて調査、分析をすることを目的とする。

#### 2. 事業の実施体制及びその他の関係団体等との連携

- 試行事業である、第3分科会の記録と報告は福祉開発研究所の加藤が行う。
- ヒアリングは、福祉開発研究所の加藤、近江グランドホーム(株)の宮川氏、健康・生きがい開発財団の藤村事務局長の合計3名で6人を対象に行う。
- 併せて、来場者23名に対してアンケートを実施する。

#### <第3分科会の講師並びにパネルディスカッションメンバー>

座長：吉田 隆幸（群馬医療福祉大学大学院教授、健康生きがいづくりアドバイザー）

内藤 正明（京都大学名誉教授、琵琶湖環境科学研究センター長）

中井 雅弘（株西日本医療福祉総合センター 常務取締役）

末吉 京子（株新陽 介護付有料老人ホーム「アビタシオン博多」九州事業本部長）

### 3. 実施した事業の概要

#### (1) 実施日

平成22年12月4日(土)

#### (2) 事業場所

第1回健康生きがい学会会場、久留米大学御井キャンパス800号館(福岡県久留米市御井町1635)

#### (3) 事業の対象

- ・試行事業の直接対象である第3分科会の出席者は約30名である。
- ・学会への出席者は約670名

#### (4) 事業の内容

1) 試行事業を実施した場である学会の概要は以下である。

- ・学会名「第1回健康生きがい学会」
- ・主催(財)健康・生きがい開発財団
- ・共催 久留米大学
- ・後援(社)日本医師会、久留米医師会、久留米大学文学部社会福祉学科、(財)長寿社会開発センター、(社)全国社会福祉協議会、(社)福岡県社会福祉協議会、(社)久留米市社会福祉協議会、福岡県、久留米市、久留米市教育委員会、大牟田市、鳥栖市、鳥栖市教育委員会、株式会社時事通信社、毎日新聞社、西日本新聞社、他
- ・協賛(財)フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団、中央法規出版株式会社、赤岩印刷株式会社、(株)ジェイシー教育研究所、製薬会社、株式会社龍角散、他(予定)

#### <プログラム>

##### 10:00~10:20 会長挨拶(提言)

京極 高宣(国立社会保障・人口問題研究所名誉所長、社会福祉法人浴風会理事長、(社)全国社会福祉協議会中央福祉学院長)

##### 10:20~12:30 生きがい座談会

テーマ「長寿社会のいきがい学の確立を目指して」

一生きがいとは何? 生涯生きがいを持って地域で暮らす一

司会:京極高宣

辻 哲夫(東京大学高齢社会総合研究機構教授)

潮谷 義子(長崎国際大学学長(指定養成校))

小向 敦子(高千穂大学教授)

上原 紀美子(久留米大学文学部准教授(指定養成校))

##### 13:30~13:40 挨拶

薬師寺 道明(久留米大学学長)

##### 13:45~14:30 特別講演

医療からみた健康と生きがい」

今村 聡(日本医師会常任理事)

##### 14:40~16:45 分科会

- ・第1分科会 生きがいと仲間づくり、自己実現、ネットワーク  
座長:白井 幸久(東京都介護福祉士会会長)

市野 弘 (花王福祉工場責任者、域外情報士講師、健康生きがいづくりアドバイザー)  
池田 武俊 (大牟田市保健福祉部長長寿社会推進課長)  
白井 孝子 (東京福祉専門学校)  
長阿彌 幹夫 (教育文化研究所)

・第2分科会 生きがいと美容、自己表現

座長：稲谷 ふみ枝 (久留米大学文学部心理学科教授)  
野澤 桂子 (山野美容芸術短期大学教授)  
松本 聖子 (資生堂販売株式会社九州支社)  
片山 裕介 (生きがい情報士)  
三浦 一秀 (医療法人古賀医院あさひクリニック)

・第3分科会 生きがいと住まい、空間

座長：吉田 隆幸 (群馬医療福祉大学大学院教授、健康生きがいづくりアドバイザー)  
内藤 正明 (京都大学名誉教授、琵琶湖環境科学研究センター長)  
中井 雅弘 (㈱西日本医療福祉総合センター 常務取締役)  
末吉 京子 (㈱新陽 介護付有料老人ホーム「アビタシオン博多」九州事業本部長)

・特別分科会 医療教育、国民の健康教育

薬師寺 道明 (久留米大学学長)  
内村 直尚 (久留米大学神経精神医学講座教授)  
神代 龍吉 (久留米大学医学教育教授)  
今村 聡、京極 高宣、辻 哲夫、各医師会関係者

17:00~18:30 全体会 (各分科会の内容発表)

2) 第3分科会「生きがいと住まい、空間」の内容は以下である。

①吉田座長の報告概要

●生きがいと住まいについて

- ・基本的には、自宅で最期まで住み続けたいという意向を持つ者がほとんどであるが、要介護3になったら、有料老人ホームなど介護施設に入らざるを得ない。その矛盾にどう対応するか。身体の変化にどう、気持ちを対応させていくかが課題である。
- ・高齢期・住まいのライフプランとしては、年齢段階で分けて大きく3つあり、最初は、第二の人生の生き方を考える時期の50歳から60歳の時期で、都心回帰マンションや田舎暮らし、Uターン暮らしの移り住みニーズがある。第二の時期は、70歳から80歳で、一時的健康不安により移り住みを検討する時期で、早めの住み替えとして、ケアハウス、自立型の有料老人ホームや高専賃などへの移り住みニーズがある。最後は80歳から90歳の時期で要介護3を超える状況になり移り住みニーズが高くなる時期で、特別養護老人ホームや介護付有料老人ホーム、介護型高専賃など要介護対応の施設への移り住みニーズが生じる。
- ・魅力あるセカンドライフづくりに必要とされる活動として、健康、社会参加、家庭・地域、経済分野に関わるものがある。
- ・やりたいことを年代別にみると、幼児から学生にかけての時代には「大人になったらやりたいことを夢見る」。青年時代には「所有欲を満足させたい」である。中年時代には、「サービスを享受したい」である。シニア時代では、「自分のやりたかったことを実現したい」である。

・リタイアしたら社会貢献できる仕事を週三回くらいして、10万円位収入があれば満足ではないか。

#### ②内藤氏の報告概要

##### ●地球にやさしいまちづくりについて

##### ●環境に配慮した家、生活、コミュニティづくりの実践について

##### ●持続性のための理念・原則の例（アワニー原則）について

・環境に配慮した持続性のための原則として、アワニー原則というのがある。これは、現在の都市および郊外の開発パターンは人びとの生活の質に対して以下のような重大な障害をもたらしている。

- ・自動車への過度の依存によってもたらされる交通混雑と大気汚染
- ・誰もが利用できるような貴重なオープンスペースの喪失
- ・経済資源の不平等な配分
- ・コミュニティに対する一体感の喪失、等

・そのコミュニティのなかで生活し、働く人びとのニーズに、よりの確に対応するようなコミュニティをつくりだすことが可能であり、そのようなコミュニティをつくりだすためには、計画書策定の段階で以下のような原則を遵守することが必要である。（コミュニティの原則）

- 1.住宅、商店、勤務先、学校、公園、公共施設など、生活関連施設・活動拠点は一体的に、多機能で統一感のあるものとして設計する。
- 2.施設が相互に歩いて行ける範囲に位置するように設計する。
- 3.施設や活動拠点は、公共交通機関の駅・停留所に歩いて行ける距離内に整備する。
- 4.歩行や自転車利用が促進されるような交通計画
- 5.エネルギー節約型のコミュニティを作り出すために、通りの方向性、建物の配置、日陰の活用などに工夫する。

・自分の友人知人は多くはすでにリタイアして悠々自適のものが多いが、今の社会を作ってきた責任はあると思う。高齢者は、サービスを受けることばかり考えないで、菜園くらい作れ、自分の食い扶持くらい稼げと言いたい。

#### ③中井氏の報告概要

##### ●福岡県中間市の福祉の街づくり「中間ウエルパークヒルズ」の概要について

- ・高齢者向けのカルチャー講座が充実している。多くの講座が開かれ参加者が多い。
- ・高齢者の利用者は仲間で集まっておしゃべりするのが一番の楽しみようだ。
- ・男性高齢者の参加が少ない。参加してもスポーツクラブくらいである。

#### ④末吉氏報告概要

##### ●介護付有料老人ホーム「アビタシオン博多」の概要について

・サービス提供現場の問題点、課題については、施設系サービスでは職員の人材確保、人材育成が課題である。リーダー層、スタッフ層それぞれ外部研修に出席させている。増加傾向のある医療依存度の高い入居者に対応できる研修である。居宅系サービスでは、相談窓口利用を促すこと、地域との交流機会を拡大することで、スタッフを地域の運動会等の行事に参加させている。介護サービス利用である。

#### ⑤会場からの質疑と応答

Q：女性

・期待していたが、あてが外れてがっかりである。老人ホームの話ばかりである。自分は自宅に最期まで住み続けたいと願っている。

・食が大事と思う。地域の仲間が集まって1日1回食事を作って一緒に食べることが出来ればと思う。見守りにもなる。

・コレクティブハウスとか一緒につくるのは良いと思うが、日本ではまだ無理。今回そういう話も出るかと期待していたが、有料老人ホームばかりの話で、自分には高くて住めない。次回はよろしくお願いします。

A：吉田委員長

・話しばかりでなく、わかりやすいよう、高齢者の住まいの事例をスライドで示しそうとしたが、それが、たまたま有料老人ホームだったので、事例の選び方に問題があったと思う。

・次回はこういうご意見は取り入れて改善してやります。

Q：男性

・内藤先生は日本人はあまり環境には配慮していないようなことをいわれたが、江戸時代の日本は欧米の人からは評価が高いようですがどう思われますか。

A：内藤氏

・いわれるとおり、江戸時代には高度な文化があったと思う。こういうことは押さえていくべきだろう。

## (2) 事後評価

・今回試行事業がセミナーの開催であるので、内容面での評価・成果について示す。

・「生きがいと住まい、空間」をテーマとした専門家、実務家による比較的短時間の報告であり、高齢者と住まいと生きがいの関係、環境や地域との関係や望ましい在り方、実際の福祉の街や介護付有料老人ホームの状況などが報告されたが、このテーマは議論がかみ合うかなかなか難しいと思われた。

・ライフステージに応じた生きがいのあり方というのはあるであろうが、場や手段である「住まい」、と目的である「いきがい」には直接の関係は生じないと考えられる。自分の家に住むことそのものを生きがいと感ずることはあろうが。

・吉田座長が年齢別の住まい方ニーズを説明したが、加齢に伴って生起する身体状況の弱化・変化や、介護施設への移り住みなどは「いきがいの喪失」をもたらすが、これを補充するもの、生きがいの再構築というものも今後の課題と考える。

・むしろ、内藤氏の報告に関係するが、住まいそのものではなく、住まいを拠点として、周囲とどのような関係を形成していくか、どのような活動を行っていくか、それをどう支援するかが、いきがいづくりにつながると考えられる。

・中井氏の報告では、高齢者のカルチャー講座がどれも盛況とのことで、場が与えられれば、参加希望者は多い者と考える。ただし、男性参加者が少ないとのことであるが、職場中心の生活から地域中心の生活への移行が男性の場合なかなか難しいと聞いているので、同じ傾向を示していると思われる。改めて、男性高齢者の地域でのいきがいづくりは課題と思われた。

・会場からの質問では、高額な有料老人ホームでは、様々な生きがい作りのサービスが提供されていても実際入居できないという意見があった。普通の方が入れる価格帯の住まいのニーズが大きいことを再認識した。また、参加型の住まい作りへの関心度の高さを感じた。

・難しいテーマの設定ではあったが、報告や議論等を通じ、高齢期の住まい方といきがいについて貴重な示唆をえられたものとする。

### (3) 今後の課題と展望

- ・加齢に伴って生起する身体状況の弱化・変化や、介護施設への移り住みなどは「いきがいの喪失」をもたらすと想定されるが、これを補充するもの、生きがいの再構築について如何に支援していくかは今後の課題と考える。
- ・住まいそのものではなく、住まいを拠点として、周囲とどのような関係を形成していくか、どのような活動を行っていくかは、いきがいつくりそのものあるいは、それにつながると考えられる。こうした視点での、いきがいつくりについて検討していきたい。
- ・高齢者のカルチャー講座が盛況である一方、男性参加者が少ないとのことであるが、背景には、男性高齢者の地域コミュニティとの関係の希薄さ、新しい人間とのコミュニケーションづくりが苦手であることがあると考える。こうした課題についても解決していかなくてはならない。
- ・高齢者は今までの経験から住まいに対しての要望も多く、コレクティブハウス等の参加型のすまいづくりにも、関心が強いのではないかと思われる。これが高齢者にとり生きがいでもあると思われる。住まいと生きがいとの関係では、これも外せないテーマと考える。

<参考：新聞掲載記事>

「生きがい学」で日本活性化 久留米で初の学会

健康生きがい学会で講演する潮谷義子氏

健康で生きがいに満ちた高齢期を送ることができる国づくり、地域づくりを目指す「第1回健康生きがい学会」（健康・生きがい開発財団主催、西日本新聞社など後援）が4日、久留米市御井町の久留米大学御井キャンパスで開かれた。

「長寿社会の生きがい学の確立を目指して」をテーマに行われた座談会では、前熊本県知事の潮谷義子・長崎国際大学学長が講演。高齢化社会の中で、65－69歳の86・6%、70－74歳の56・3%が「支えられるべき『高齢者』は自分の年齢より上」と考えているという内閣府の調査（2004年）を紹介した。

潮谷氏は「高齢者自身による“高齢観”が変化している。『働けるうちはいつまでも働きたい』という人が増え、就労への意欲が高い」と指摘、「長寿社会の生きがい学の確立は日本社会の活性化を生み出す」と呼び掛けた。

座談会の後には、仲間づくり、美容・自己実現、住まい・空間、健康教育の視点から「健康生きがい学」を考える分科会も開かれた。

＝2010/12/06付 西日本新聞朝刊＝



## 第1回生きがい学会開催要項

健康と安心、そして生きがいに満ちた高齢期を迎えることは万人の願いであり、全ての高齢者に健やかな老いを保障することは老人福祉の究極的な目的といえます。そこで、高齢者が健康と安心に加えて、生きがいのある人生を送るために、国、地域社会、そして私達一人ひとりがどのように対応していくべきか意を尽くしていくために「生きがい学会」を創設し、生きがいに関係する専門家や実践家が一堂に会して学術の交流を図りながら、今後の高齢社会の発展と向上に寄与していきます。

主催：(財)健康・生きがい開発財団  
後援：財団法人長寿社会開発センター、全国社会福祉協議会、久留米市社会福祉協議会、(社)日本医師会、久留米市医師会、久留米大学文学部社会福祉学科、福岡県、久留米市、久留米市教育委員会、大牟田市他(予定)  
協賛：(財)フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団、株式会社龍角散、中央法規出版株式会社、赤岩印刷株式会社、製薬会社、新聞社 他(予定)  
日程：平成22年 12月 4日 土曜日  
場所：久留米大学御井キャンパス 800号館 福岡県久留米市御井町1635

### 内容

- 10:00~10:20 会長挨拶(提言)  
京極 高宣 氏  
国立社会保障・人口問題研究所名誉所長、社会福祉法人 浴風会 理事長、  
(社)全国社会福祉協議会 中央福祉学院長
- 10:20~12:30 生きがい座談会  
テーマ 「長寿社会のいきがい学の確立を目指して」  
— 生きがいとは何? 生涯生きがいを持って地域で暮らす —  
司会 京極 高宣 氏  
辻 哲夫 氏 東京大学高齢社会総合研究機構教授  
(財)健康・生きがい開発財団理事長  
潮谷 義子 氏 長崎国際大学学長 指定養成校  
小向 敦子 氏 高千穂大学教授  
上原 紀美子氏 久留米大学文学部准教授 指定養成校
- 13:30~14:15 特別講演  
テーマ 「医療からみた健康と生きがい」  
今村 聡 氏 日本医師会常任理事
- 14:30~16:45 分科会  
第1分科会 生きがいと仲間づくり、自己実現、ネットワーク  
座長 白井 幸久氏 東京都介護福祉士会会長  
市野 弘 氏 花王福祉工場責任者、生きがい情報士講師、  
健康生きがいづくりアドバイザー  
池田 武俊氏 大牟田市保健福祉部長寿社会推進課長  
白井 孝子氏 東京福祉専門学校  
長阿彌 幹夫(チヨウアミ ミキオ)教育文化研究所  
第2分科会 生きがいと美容、自己表現  
座長 稲谷 ふみ枝氏 久留米大学文学部心理学科教授  
野澤 桂子氏 山野美容芸術短期大学教授  
(株)資生堂 (資生堂販売株式会社九州支社予定)  
片山 裕介氏 生きがい情報士  
第3分科会 生きがいと住まい、空間  
座長 吉田 隆幸氏 群馬医療福祉大学大学院教授、健康生きがいづくりアドバイザー  
内藤 正明氏 京都大学名誉教授、琵琶湖環境科学研究センター長
- \*分科会追加メンバー調整中です。
- 17:00~18:30 全体会(各分科会の内容発表)  
19:00~21:00 懇親会 久留米萃香園ホテル 2階鶴の間 (5,000円)

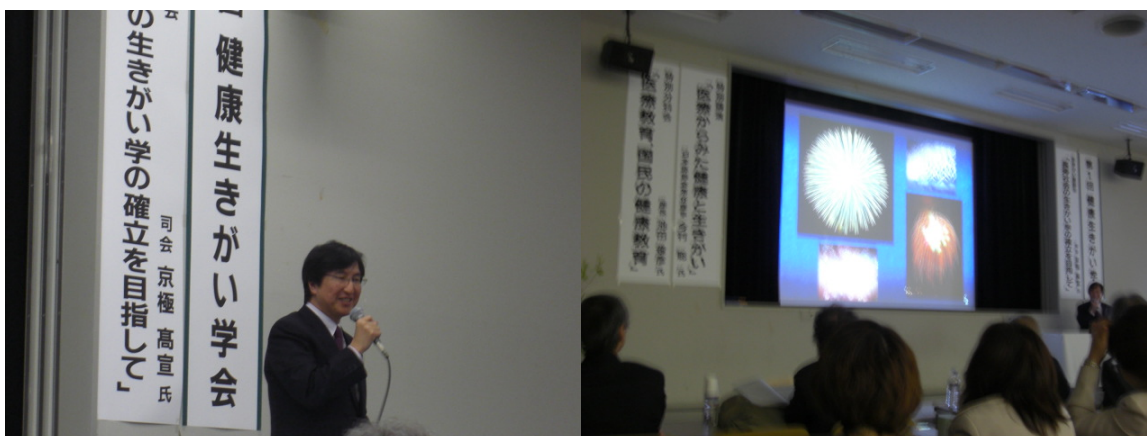


## 事業実施状況(写真)

### 1)挨拶 薬師寺道明氏(久留米大学学長)



### 2)特別講演 医療からみた健康と生きがい」今村 聡 氏(日本医師会常任理事)



### 3)分科会

#### ①第3分科会 生きがいと住まい、空間

<座長:吉田氏>





<座長:吉田氏スライド>

<内藤氏>

高齢期・住まいのライフプラン (概要)

年齢	50~60歳	70~80歳	80~90歳
移り住み	都心回帰マンション	早めの住み替え	要介護対応
ニーズ	高付加価値マンション 田舎暮らし Uターン暮らし	「ケアハウス」 「自立型有料老人ホーム」 「自立型高専賃」	「特別養護老人ホーム」 「介護型有料老人ホーム」 「介護型高専賃」
住み続け	フィットネスクラブ	バリアフリー改修	バリアフリー改修
ニーズ	カルチャーセンター 農園・コミュニティBS	生活サービス利用	生活サービス利用 介護サービス利用
ニーズの発生要因	第2の人生の生き方を考える時期	一時的健康不安により 移り住みを検討	要介護度3の状況になり 移り住みニーズが高くなる



<中井氏>

<末吉氏>



②特別分科会 医療教育、国民の健康教育

③第2分科会 生きがいと美容、自己表現



■ 全体会(各座長による各分科会の内容発表)



■ 会場からの質問者

